

風

宮田守男
ファイナル
(現場)からの

明治維新期の1871年8月29日、明治政府がそれまでの藩を廃止し、全国を「府」と「県」に置き換えることを目的とした「廃藩置県の詔書」が下され

てから150年以上を経過している。しかし人口減少が続く中でも府や県の統廃合の論議が聞かれない。府や県すべてを大胆になくす改革も模索すべきだ。これらの論議を利害性のある議員に委ねるのでなく国民会議的な場で人口減社会でも継続できる制度改革が求められる。

この夏も全国的に猛暑で、都市部と比べ涼しく過ごす場所を求めて、コンドリアフトを利用して高所で楽しめる観光地が人気を集めた。1981年の今日29日は、奈良県・生駒山に日本初のケーブルカーが開業して100年を越す年月が経過した。温暖化による猛暑現象は避けられないならば、今の大北地域の観光スタイルが現状のままでは継続的に発展し続けることには課題もあるはずだ。

新たな観光資源の創設を願う

環境や景観と共生する新たな、より山頂に近く到達する輸送手段の必要性を模索することはできないのだろうか。健康者だけが登山手段によって楽しむ山岳観光ではなく、誰もが頂上からの広大な風景や、ご来光を眺められる観光ステーションの実現を願うばかりだ。

8月19日〜21日開催された第17回白馬カップ大学女子ソフトボール大会の審判員として選手たちの情熱を強く感じる機会に恵まれた。大会当初は、白馬村ソフトボール愛好者が、ぬくもりのある手作りの大会としてスタートしたが、年々競技レベルもあがり、競技役員も中信地区の関係者より新潟県や中信以外の県内の関係者が過半数以上を占める。会場準備も地元関係者の取り組みだけでは選手や競技役員に評価される競技環境にならない事も確か。地域全体で大会を支援する環境を望むばかりだ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）



白馬カップ大会終了後、会場片づけに全面協力する選手の方々の取り組みが大会開催の意義の表れた